

令和4年度 第2回福井県嶺北地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和4年11月28日（月）13：30～15：40

場 所：福井県国際交流会館 特別会議室

1 開会

2 あいさつ

福井県 藤丸新幹線・まちづくり対策監

3 報告

(1) 福井県嶺北地域公共交通活性化協議会委員の変更について

・事務局より資料説明

4 議事

(1) 計画策定に向けた嶺北地域の現状と課題、施策の方向性について

・事務局より資料説明

5 意見交換

<質疑応答>

越前市

・交通分担率だが、過去と比べてどうか、他地域と比べてどうなのかがわかると福井県の位置がわかると思うがいかがか。

事務局

・福井県の公共交通の分担率は低く、自動車分担率が高い傾向にある。過去の国勢調査のデータは手元にないため、また調べさせていただきたい。

川本会長

・過去との比較は意義のあることかと思う。少し時間をいただいて、後日、お示しいただければと思う。

<各市町、交通事業者の取組や課題認識等について>

福井市

・資料2のP4について、既存の公共サービスだけではなく、あごころバスという地域主体で運営しているサービスだが、福祉施設の車両も活用し、ショッピングセンターへ週1回1往復輸送している。小さい取組ではあるが、地域の足を確保する取組が必要であり、施策にもそのような視点を入れてほしい。

・課題の3について自家用車の依存について記載されているが、マイカー利用者を公共交通に転換することは難しいと思う。資料のP38では、「マイカーを利用しない生活は考えら

れない」と答えた方が62%を占めている。将来自分も公共交通を利用せざるをえない状況になり得るということを考え、平日は週に1回通勤通学に利用してもらい、土日は積極的に利用してでかけるなど、公共交通への「転換」というよりも、公共交通に乗ってみる「体験」という意識を高めていくことが重要と考えている。福井市においても計画を策定し、公共交通を利用するきっかけづくりに視点を当てて取り組んでいるため、そのような点を踏まえてはどうか。市においても計画を策定し、車と共存しながら公共交通を利用する視点で取り組みを行っている。

大野市

- ・大野市では昨年度から都市マスタープランの策定に取り組んでおり、年末に策定する予定である。福井市や勝山市との公共交通を軸とした連携の考え方を残しつつ、中心市街地から周辺の集落とのネットワークづくりを柱としている。市内の学校再編も進んでおり、スクールバスや市内コミュニティバス等の公共交通のネットワークの再構築を検討している。福祉との連携や貨客混載による物流との連携も見据える必要がある。
- ・また、JRについては、北陸新幹線敦賀延伸に向けて県や沿線市町と観光利用の促進などに取り組んでいる。どれだけネットワークを作っても、乗り継ぎがよくなければ、利用者の定着や増加に繋がらないと感じている。

勝山市

- ・過度な自家用車利用の改善が大きな課題であると考えている。日常生活については、行き先に充実した公共交通ネットワークが整備されていれば、マイカー利用からの脱却が見込めるのではないかと。観光面については、恐竜博物館へ行くバスに面白いラッピングをして、二次交通と三次交通のわくわく感をつなげていく仕掛けが観光客向けには必要である。
- ・また、嶺北地域は雪が多いことから、スキージャム勝山などの観光客への対応も必要であるが、日常生活の足を確保することが重要である。雪への対応も計画に記載いただきたい。
- ・市街地ではバスの本数が少ないため、令和6年度の市内全域でのフルデマンド化に向けて、来年1月には市内2地区で実証実験を予定している。
- ・夜間には路線バスの運行本数が少なく、宿泊者の夜間の交通の足の確保としてレンタカーやカーシェアの仕組み作りにも取り組んでいる。

鯖江市

- ・タクシーを含めて、担い手不足が懸念される。
- ・鯖江市内ではコミュニティバスを運行しており、今年度ダイヤ改正をしたところである。中型バス1台と小型バス7台を持っているが、次年度以降にバス車両の更新を行いたい。
- ・新幹線開業に合わせ鯖江駅東口等の整備に向けて設計を進めている。極力、在来線となるハピラインの利用者を減少させないようにしたい。

- ・西山公園をはじめ観光施設への入込を高めるために、近隣市町と連携した交通手段を考えていく必要がある。

あわら市

- ・アンケート調査の結果から分かるように、運行本数の増便や乗り換えのスムーズなダイヤ編成等を求められており、地域住民のニーズに合わせた効率的な運行をとることで、公共交通がより便利になる（便利さを感じる）ことが重要であると考え。平成30年大雪の際は道路が除雪されず、JRを利用したが、公共交通があって本当に助かったと実感した。車を利用した人は、あわらから福井まで数時間要したとも聞いた。その後も、道路の凍結が予想される場合はJRを利用するようになった。このように、公共交通が便利であると実感してもらう仕掛けづくりが重要と考える。
- ・新幹線駅からの二次交通について、JRの「サイコロきっぷ」実施期間中、JR芦原温泉駅でバスの利用を求める多くの観光客が見受けられ、東尋坊行きのバスなど満員で乗れなかったことがあった。北陸新幹線が開業した際には、更に観光客の増加が見込まれることから新幹線発着に合わせたダイヤ設定を考慮していただきたい。
- ・高齢者に目を向けると、あわら市では乗合タクシーが移動手段として定着している。通院や買い物など生活圏が隣接する坂井市にも及び、市域をこえた移動要望が出ている。住民が自由に市町を跨いだ移動が出来ることが重要であり、嶺北一体で取り組んでいただきたい。現在、あわら市の乗合タクシーは市外の人でも利用可能だが、他市町のデマンドタクシー等は利用が市民に限定されている場合が多く、市外へ移動してもそこからの移動手段がないという現状がある。各市町のデマンドタクシーを自由に使える環境整備や市町の垣根を超えたネットワークづくりを計画に取り入れていただきたい。
- ・北陸新幹線開業に向け、機運醸成が重要であると考え。市内タクシー事業者のご協力の下、新幹線開業のステッカーをタクシーに貼って市内全域で開業をPRしていただくことや、タクシー運転手に対し「おもてなし講習」を実施するなど検討していきたい。

越前市

- ・福井県は公共交通分担率が低く、公共交通を利用していただく余白が大きいと期待しているところである。そのために、いかにドラスティックに変えて、公共交通が便利であることを示していくかが重要である。ハピラインふくいのパターンダイヤ化や、それらを踏まえた市内コミュニティバスの接続改善によって利便性を高めていくことが必要と考えている。
- ・北陸新幹線の二次交通について、市民バスの路線やダイヤを考えていく必要があり、来年度予算をもって進めていきたい。地域交通も大きく転換する必要があり、デマンド交通の仕組みも検討していかなければならないと考えている。

坂井市

- ・公共交通には日常生活を支えるという面と観光面があり、坂井市では日常生活の外出を支援するために令和5年1月から坂井市を3つのエリアに分けてオンデマンド型交通を行う。日常生活の利用が土台としてある中で、各公共交通と連携しながら観光面の施策を考えていくことがあるべき姿であり、市民が選択できるサービスをいかに提供していくことができるか、関係機関と協力していくべきと考えている。
- ・運転免許証の返納について、返納を支援する仕組みや、自分自身の安全につながると高齢者に理解していただくために、いかに啓発していくか考えていく必要がある。

永平寺町

- ・永平寺町では地域限定でデマンド交通を運行しているが、町内に限っているが、広域的な運行にどの程度まで行政が踏み込めるかが今後の課題と考えている。
- ・鉄道駅のトイレ整備など利便性の向上なども進めてまいりたい。

池田町

- ・ドライバーの高齢化が進んでおり、免許の自主返納者が利用しやすい公共交通の環境整備が重要である。池田町では池田線とマイバスにおいて町民割引を設けているほか、通学定期券購入の9割、通勤定期券購入の3割補助を行っている。また、ハード整備としてマイバスの車両更新も予定している。
- ・資料については、レンタカーの利用状況に関するデータがあっても面白いと思う。レンタカー利用者は公共交通を利用しない理由があるため、レンタカーから公共交通への課題がみつかるのではないかと。

南越前町

- ・南越前町ではAIデマンドバスの実証実験を行っている。現在の会員登録者数は200人程度であり、登録者数に合わせ利用者数も増加傾向にある。新年度も実証運行を行いながら、コミュニティバスからの転換を新年度内に進めていきたい。運賃は1回100円であるが、免許返納者や豪雨被災者は無料で利用できるようにしている。
- ・新幹線開業に向けた二次交通について、夏のシーズンには今庄駅から花はす公園や河野の海水浴場へのシャトルバスを実証実験で運行し、花はす公園へのシャトルバスは多くの利用があったが、海岸地区の利用が伸びなかった。冬場のシーズンにはカニを食べる方をターゲットにしたい。

越前町

- ・課題については、他市町と同様である。
- ・バスを利用している高校生の通学定期への補助制度は効果的であり、継続したい。また、路線バスとコミュニティバスには運賃価格に差がある。料金差額がないように補助しているので、こちらも継続したい。

- ・令和4年4月に始めたデマンドタクシー事業においても状況を見ながら内容を充実させ継続したい。
- ・北陸新幹線開業に向け、令和3、4年度にはカニのシーズンに福井駅と越前海岸を結ぶラッピングバスを運行している。令和5年度以降も状況を精査しつつ事業継続を検討したい。

中部運輸局

- ・資料3のII-①には交通空白地域はほぼ無い状況にあると記載されているが、本当にはないと言い切れるのか確認したい。
- ・II-⑤国庫補助の条件を満たさない路線があると記載されているが、現在はコロナ特例で補助を出しているものの、来年度以降も継続される保証はないため、検討は進めていただきたい。
- ・新幹線開業に向けたエンタメ交通に関する記載は面白く、嶺北地域ならではの意見があった。一方で先ほどの意見にもあったとおり、雪や大雨の視点も盛り込めると良いと思う。

川本会長

- ・公共交通空白地域については資料P26にあるように、鉄道駅から半径1kmとバス停から半径500mの距離をカバー範囲として定義づけ整理している。認識上の確認という意図か。

中部運輸局

- ・市町としてこのような定義のもと、公共空白地域がないとしてよいか確認したいという意図であった。

川本会長

- ・カバー範囲の距離は教科書的な数字であるが、高齢化に伴い柔軟に変化し得る。空白地域に対する認識が大きく違わないよう調整や議論が必要かもしれない。

福井運輸支局

- ・各市町のコミュニティバスは市町内で完結していると思うが、経済圏は市町界に関係なく存在しているため、隣接市町と連携を図って市町の境を越えたコミュニティバスの運行も検討いただきたい。また、公共交通に限らず様々な輸送資源を活用できるものは活用して頂きたい。

JR西日本

- ・嶺北地域のアンケートにて、住民のご要望をうかがい、鉄道利用を増やすための取組だけでなく、他の公共交通の利用も地域と連携して増やしていかないといけないと思ったところである。そのような中で、資料3の施策5「越美北線の利用促進」については、他の施

策と比べて個別具体の話になっており、嶺北地域全体の計画の中で個別に記載されていることに違和感があった。

川本会長

- ・嶺北地域の特性として具体的な表現となっていると思うが、最終的な表現として協議させていただくこととなる。

ハピライン

- ・課題施策の方向性については、各駅1km圏域の企業31社にアンケートをし、590名から回答があった。パーク・アンド・ライドが22%と運行本数の増便21%と要望が多く得られた。
- ・交通利用促進に向けた新たな対策として快速列車を含めた朝夕便24本増便のあわせて126本の運行も考えている。
- ・パターンダイヤでの運行を行い、利用しやすいダイヤとしたい。新幹線ダイヤとのスムーズな接続も考えていきたい。
- ・利用者の増加に向けて新駅整備が大きな柱となっている。越前市の新駅について、令和5年度は詳細設計を実施する予定である。令和6年春開業後、速やかに工事着手できるよう越前市と連携して進めている。

福井鉄道

- ・バスについては、P33にあるとおり、国庫補助要件を大きく下回っている。コロナ特例で補助対象路線となっているが、それがなくなると市町の負担が大きくなるのが懸念される。今回の方向性に持続可能な交通ネットワークを掲げている。その視点を鑑みると一定程度の路線再編は避けられない。県にはリーダーシップをとって市町の調整をしてほしい。
- ・P34の担い手不足について、運転手の採用を進めているが、採用が進まないのが現状である。デマンド交通についても議論があったが、路線バスの運転手よりもっと多くの運転手を確保しなければいけなくなる状況になる。高齢化が進むと担い手が不足する。路線バスやコミュニティバスをやめて、デマンド交通に移行したあと担い手が不足したときに、通常の定時定路線に戻ることはできないであろうから、慎重な検討が必要である。
- ・運行が多い朝や夕ピーク以外の時間帯の運行本数を減らしてしまうと、利用しづらいダイヤとなってしまうため、北陸新幹線開業後のニーズに対応できるよう運行本数や接続を充実させていくことも重要である。

えちぜん鉄道

- ・利用促進について、公共交通分担率の5%をいかに上げていくかが課題である。自動車は中々手放せないため、パーク・アンド・ライド駐車場の整備により通勤の方の利用率を挙げていくことが重要である。

- ・公共交通機関の乗り継ぎについては、増便という意見もあるが現実的には難しい。30分おき程度のパターンダイヤになれば、ある程度利便性が上がる。これにバスが接続し、乗り継ぎのストレスを高めないようにすると良い。
- ・コミュニティバスのフルデマンド化について、高齢者がうまく利用しきれていない印象であるが、利用に慣れてきたときに運転手不足が顕著になる恐れがある。コミバスの運行について、生活圏と市町の境は異なるため、市町を越えた柔軟な運行が必要である。
- ・人材確保についてであるが、運転手と技術職の確保は難しい。事業者側の努力の話でもあるので、やりがいのアピールやイメージアップに取り組む必要がある。新幹線開業によって利用が増えた時にどのように対応するのかは待ったなしであると考えている。
- ・D Xの関連で交通系ICカード導入の検討をしていくため、県・沿線市町のご支援をお願いしたい。また、M a a Sについては情報提供や観光系など組み合っていると思うので、もう少し整理が必要である。

京福バス

- ・運転手不足の解消が一番の課題であり、解決に向けて取り組んでいる状況である。200人の運転手がいるが、30人ほど不足しており、深刻である。今後も高齢化が進み、採用者数が退職者数に追いついていないため、運転手不足に拍車がかかる。採用活動は新卒者の募集や、労働条件の見直しを行っているが、設備投資等の負担が大きく、賃金の見直しは難しい。労働法の見直しも予定されており、厳しい状況が予想される。二次交通の充実が求められているが、運転手をどのように配分するか苦慮している。
- ・利用促進について、地域の最寄りのバス停にダイヤ表を配布したりしているが、ダイヤは運転手の就務に関係するので、簡単に変更することはできないのが現状である。利用者が使いやすいようなダイヤとなるよう努力したい。
- ・高齢者の移動支援についても、十分なことはできていないが、取組んでいきたい。
- ・県の支援をいただき、交通ICの導入は実施していきたい。公共交通の乗り方を知らないことに対する不安があって利用されない方もいるので、周知を進めていく。キャッシュレスや運賃制度の見直しを進め、利用者の定着に繋げたい。また、I C O C Aが導入される予定であり、高齢者の運転免許返納の支援とも連携した取組を進めたい。
- ・バスロケについて、M a a SやG T F Sの対応を進めている。G o o g l eマップにリアルタイムの遅れ情報が表示されるよう補助を頂きながら整備を進めたい。
- ・新幹線開業に向けた二次交通の取組については、関東を中心に多くの方が来訪することが期待される。あわら、丸岡、永平寺、朝倉はバスの増強や特急バス等の復活も考えている。
- ・駅周辺のサインや運転手の接客マナーについても課題認識がある。課題が山積しているが、できることから進めていきたい。

タクシー協会

- ・運転手不足が一番の課題である。運転手は5年前と比較し、20%近く減少しており、平均年齢63.9歳と高齢化が進んでいる。運転手の採用を進めているが、十分に確保できないのが現状である。各事業者で新たな取組みをしていくので、各市町と連携、ご支援をお願いしたい。
- ・デマンド化の話について、タクシーも公共交通であり、バスとタクシーの間をとったものがデマンドである。デマンドが本業の利用者を取ってしまう可能性もあり、利用者と行政、事業者のバランスをとることが必要である。コミュニケーションを密に取りながら、持続可能な運行方法を探っていく必要がある。
- ・人員不足について、タクシーよりもデマンド交通の運転手の方が採用しやすい。開始時間も8時過ぎからと遅く、終了時間も早いため、人材を確保しやすい。
- ・幹線の鉄道やバスをうまく機能させるためには枝となるタクシーやデマンド交通の役割が重要になるため、乗り継ぎ環境の向上に注力していきたい。
- ・二次交通に向けた取組については、最終的に個別のお客様の対応はタクシーとなるため、ニーズに合った乗りやすいタクシーの取組が重要である。タクシーの予約方法や決済についても、タクシーのポータルサイトで掲載・説明しており、周遊観光のモデルルートの公募など、今までにはない取組を進めている。定額タクシーも利用者にとってわかりやすいため、市町と連携して取組を進めていきたい。
- ・初めての方も安心して乗車できるように事前確定運賃の仕組みを取り入れている。ぜひご承知置きいただきたい。

福井河川国道事務所

- ・二次交通について、中部縦貫自動車道が来年秋に順次開通予定であり、道路管理者としてしっかりと整備を進めたい。利便性向上の取組と併せて、施策4のモビリティ・マネジメントに関し、利用者の意識を変えていくことが重要である。目的や距離によって公共交通を利用したほうが便利ということがある。このような周知をすすめていくことが重要ではないかと思う。

福井県警

- ・高齢ドライバーの事故防止対策の観点として、公共交通機関への転換を進めていきたい。取り締まった高齢者にも免許返納を促しているが、強制はできない。ご家族の理解や個人で環境が異なるなど難しい部分があるが、返納された方がどれくらい公共交通を利用されているかという分析や利用者の生の声を紹介することで免許返納を促していけると考える。公共交通利用で+αの付加価値を伝えていきたい。

老人クラブ

- ・高齢者の自主返納についてご意見がたくさんあった。行政のサービスは充実していると考えられるが、地域間の連携したサービスは見られない。高齢者は地域内でサービスを利用する

ということよりも、県内の日帰りの移動ニーズが増えている。このような機会に、福井県が中心となり、公共交通機関やタクシーを利用する支援をお願いしたい。運転免許自主返納者への対応について、1日フリー乗車券などの、各鉄道やバス、市町を超えての取組があってほしい。

P T A 連 合 会

- ・ P T A 連合会は小中学生が対象となるので、あまりバスや鉄道を利用していないが、ふく割の企画を利用して夏休みに海や恐竜博物館に行ったとの話を聞いた。その移動が口コミでひろがって、子どもも公共交通を利用するきっかけとなった。きっかけとなるサービスから公共交通の利用を広めて行ければよい。

県 観 光 連 盟

- ・ 福井県の現状として、観光客の半数が福井県外で宿泊しており、地域経済のためにも周遊観光を進めているところである。周遊観光には公共交通の利便性向上や充実が重要であると考え。現在、観光地70箇所でアンケート調査を行っており、永平寺、丸岡、東尋坊、恐竜博物館や朝倉氏遺跡が主な目的地となっている。連盟ではタクシープランも行っているが、まずは、定番コースの周遊観光の環境づくりが重要であると考え。
- ・ 週末は観光客が多いが平日は少ないため、学会や修学旅行の誘致を進めている。
- ・ インバウンドも見据え、サインの多言語化も考えてほしい。

川 本 会 長

- ・ 本日欠席の三寺委員からは事前に意見をいただいている。事務局から紹介いただきたい。

事 務 局

- ・ 三寺委員からは3点のご意見をいただいているため紹介させていただきたい。
- ・ 公共交通と駅前のまちづくりとの連携の取組が大事である。利用者からすると、心地よく歩きたくなるまちへと変えていくことが重要であり、歩道や照明施設など街路の質を上げて、自家用車ではなく公共交通でまちなかまで来てもらうことが公共交通を支えることに繋がる。
- ・ 公共交通の移動を楽しむ仕掛けづくりについて、車窓の風景を楽しむ仕掛けづくりや地域資源を活かしたイベント列車などが考えられる。
- ・ 公共交通の存在意義は収支面だけではなく、高齢者の移動手段の確保や交通安全、観光客の観光地の移動手段の提供、温室効果ガスの削減など多面的な効果の評価として見ていく必要がある。

事務局

- ・越美北線の施策についてJRからご意見があったが、越美北線については個別の計画が策定されていないものの重要な路線であることから、今回の計画に位置づけてはどうかという意図で具体的に掲載させていただいた。

川本会長

- ・今回は、皆様から具体的なところについてご意見いただけたと思っている。前回なかったのは非常時でも安心できる広域的な交通の確保というところと、ドライバー確保についての懸念と今後の対応についてご指摘いただいた。
- ・また、市町を跨ぐ交通、生活圏をベースにした交通をどう確保していくかご指摘をいただいた。
- ・その他、たくさんご意見いただきましたので、次回に向けて内容検討していきたい。

6 閉会